

が進捗状況を評価し、それを四役・課長の検討会で再評価、その後町民代表の評価委員会で評価。この結果を「元気づエック」と題した冊子にして、全世界に配布しているが、特にこの冊子の文章表現・内容は、中学生でも分かるように配慮してある。情報として単に発信するのではなく、いかに住民に理解してもらえるかを重視し、そのための職員の工夫と苦勞が、生かされている。この評価システムにより、住民視点の評価の実施、その評価の政策への反映、評価に対する職員の意識の高揚が図られている。

文教厚生常任委員会

平成十五年十一月十一日から十三日までの三日間、大分県臼杵市と福岡県大川市で調査を行いました。

学校給食センターへの取り組み

大分県臼杵市



フルドライシステムによる給食センター（臼杵市）

臼杵市は、人口約三万六、〇〇〇人である。臼杵市の学校給食は、中学校が牛乳給食のみであったため、中学校給食実施の早期実現を求める陳情がなされた。こうしたなか、腸管出血性大腸菌O157による、食中毒事故が新たな問題として浮上し、既存の施設は、その対策の強化を求められた。そこで、検討した結果、小・中学校共同調理方式の給食センター建設の方針が決定した。給食センターの概要は、敷地面積二、九九五平方

鉄骨造二階建て、総事業費は八億六、二〇〇万円、平成十二年から供用開始された。厨房はフルドライシステムで、調理能力は一日当たり三、五〇〇食、施設はハセツブ（世界標準の衛生管理手法）を導入し、衛生面での危害の未然防止を最も重視している。特徴の一つに、食材に地元の農産物を活用し、子供たちの農業への理解、農家の有機農産物生産への意識向上等を目的とする「給食畑」に取り組んでいる。

養護老人ホームの民間委託への取り組み

福岡県大川市

大川市は、人口約四万一、〇〇〇人で、市立養護老人施設「明光園」は、施設の老朽化が進み、早期改修が望まれていた。改築に対して県からは、

デイサービスセンターを併設すべきとの指導がなされた。施設の改築とデイサービスセンター併設に対する財政負担は、困難ということから、公設